※令和４年度以降入学生用

学校番号	T1207

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史科	科目	地理総合	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「地理総合」　（実教出版）						
副教材等	「基本地図帳」（二宮書店）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・地理総合とは、自然地理、人文地理、地誌の分野の基本的なことを学習する科目です。地理といえば、都道府県名や国名やそれらの位置を単に覚えるといったことを思うかもしれませんが、この授業について、「なぜこのような地形や気候なのだろう」や「なぜこのような文化なのだろう」など、常に「なぜ」という視線で授業を行い、生徒の皆さん自身で調べたことなどを発表する形式で授業を行います。近年、スマートフォンにある地図アプリを使用している人も多いでしょうが、地図帳の基本的な使い方や見方なども勉強します。
・授業で Chromebook を使用することもあります。
・皆さんが授業に積極的に参加することを期待しています。

２　学習の到達目標

社会的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 中学で学習してきたことの知識等を再確認しながら、高校で学習する内容を身につける。
(2) 日本や世界の生活文化や情勢、動向を「なぜ」そのようになったかを、歴史的背景等を含めて考え、自身で判断することができるようになる。
(3)常に地図や地理情報システムを用いて日本や世界の情勢の情報を収集し、自身の力でまとめ、論述・討論ができるようになる。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに，調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理や歴史に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や，考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。	地理や歴史に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の国土や歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期(4月～5月中旬)	地図や地理情報システムでとらえる現代世界	・球面と平面 ・緯度と経度 ・日常生活の中の地図	a：地球儀と地図の違いやそれぞれの図法の特徴、地軸の傾きや季節変化や、緯度の高低と季節変化や日常生活への関わりをまとめることができ、時差が生じる理由を理解している。 b：各地図と地球儀と比較し、違いを見つけ、用途を多面的・多角的に考察し、緯度による人々の生活文化の違いについて考え、時差が人々の日常生活に与える影響について多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 c：様々な地図の活用法について主体的に追究し、日常生活や世界の諸課題の解決に地図を生かし、時差が経済活動に与える影響などに興味関心を持ち、身近な地域の課題解決に向け、世界や地域の課題意識を高め、その課題解決に意欲的追究しようとしている。	・考査点	・考査点 ・学習プリント ・授業中の発表	・学習プリント等
		・国家の領域 ・日本の位置と領域 ・国家間の結び付き	a：様々な国境の形態を理解し、日本の位置的特徴や領域、領土問題や課題について理解し、国家が連携する理由や結び付きについて、歴史的背景を理解できている。 b：国境の形態の違いや形成要因、日本の領域や領土問題について歴史的背景を踏まえ、国家間の結び付きについて、多面的・多角的に考察することができている。			

※令和４年度以降入学生用

			c：国家の領域の役割について主体的に追究し、世界で起こっている領土問題等に意欲的に目を向け、解決策を追究し、よりよい国際社会の実現に向け、意欲的に課題解決に取り組もうとしている。			
		・モノ・人・情報のグローバル化 ・世界の交通、物流と日本 ・観光のグローバル化	a：教科書の資料等から国家間の情報に関する現状、時間距離の短縮を地図表現から読み取り、適切な地図や統計資料を選択し、内容や特徴をまとめることができている。 b：労働者の国家間の移動について、様々な背景や情報の結び付きと諸問題、交通網や輸送技術の進展について、統計資料や地図を読み取りながら、レポート等で適切に表現できている。また、日本の旅行形態の多様化について、多面的・多角的に考察ができている。 c：人の移動のグローバル化により生じる様々な問題を身近な課題としてとらえ、その解決策について意欲的に考察し、交通や物流の変化が世界経済に与えた影響について主体的に考え、学習内容と社会生活との接点を積極的に見いだそうとしている。また、様々な旅行の形態について、興味関心を抱き、観光について多面的・多角的に考察している。			

※令和４年度以降入学生用

	自然環境と生活文化	・地域と生活文化 ・気候と生活文化 ・急速な経済発展で揺れ動く人々の暮らし（東アジア）	a：地形の特徴の違いと人々の生活文化との関わりや、各気候の分布と特徴と関連し、人々の生活文化について理解できている。また、東アジアの経済発展の過程を社会変化と関し、必要な情報を収集し、まとめることができている。 b：都市と農村の社会変化の違いや、急速な経済発展により生じた様々な諸課題について、多面的・多角的に考察し、その解決策などを協働的に考察し、表現している。 c：東アジアの急速な経済発展について主体的に追究し、自らの社会生活に関連する課題について意欲的に考察し、その解決策を主体的に構想しようとしている。			
前期（5月下旬～7月上旬）	宗教に基づいた生活文化	・イスラームと結び付く生活文化（西アジア・北アフリカ	a：イスラームの成り立ちや拡大・習慣、イスラームとヒンドゥー教の習慣の違いを比較し、イスラーム社会の抱える問題について、必要な情報を収集し、その特徴をまとめることができる。 b：イスラームの拡大と分布の特徴や生活習慣について、伝統的習慣や、グローバル化の社会状況の変化で見られる多様化やイスラーム社会が抱える問題について考察し、適切に表現している。 c：イスラーム社会の課題と日本や身近な地域との関連性を主体的に追究し、これらの諸課題について考察し、解決策を主体的に構想しようとしている。	・考査点	・考査点 ・学習プリント ・授業中の発表	・学習プリント

※令和４年度以降入学生用

	国家・民族・言語の結び付きと生活文化）	・国家の統合と生活文化（ヨーロッパ）	a：地図や資料から世界の民族分布の特徴を、ヨーロッパの地域統合の過程、人々の暮らしの変化、地域統合により生まれた課題を読み取ることができ、ヨーロッパの農業や工業の発達について、地域の生活文化と関連づけて理解している。 b：言語が異なる民族間で生じている様々な問題や課題や、地域統合に伴う人々の生活に関する課題について、多面的・多角的に考察し、レポートや発表等で適切に表現している。 c：地域統合による人々の生活の変化や、地域統合による格差や多文化共生といった課題、ヨーロッパの持続可能な社会の実現に向けた産業面での取り組みに対し、身近な課題と関連付けて主体的に追究しようとしている。			
前期（８月下旬～１０月上旬）	移民とともに形成された生活文化	・先住民と移民による多文化社会の発展（オセアニア）	a：オーストラリアが積極的に移民を受け入れる背景や変化の資料を読み取り、農業や鉱工業の特徴や、大陸部と島嶼部の生活文化について比較し、考察することができる。 b：オーストラリアが移民を多く受け入れる理由、多文化共生に至るまでの課題や今後の課題、産業発展と移民の関わり方、大陸部・島嶼部それぞれの社会が抱える課題について多面的・多角的に考察している。 c：移民の受け入れと国の発展、移民増加に伴う課題、島嶼部の先住民が抱える課題について主体的に追究し、その解決策を意欲的に考察・構想しようとしている。	・考査点	・考査点 ・学習プリント ・授業中の発表	・学習プリント

※令和４年度以降入学生用

	地球的課題と国際協力	・人口問題の展開と対策 ・アンバランスな人口分布 ・食料問題の要因と解決に向けた課題 ・食料問題への取り組み ・都市・居住問題	a:人口ピラミッドや地図や資料を読み取り、人口爆発や人口変化の過程、世界の人口の偏り、都市人口の増加によって引き起こされる都市問題や食料問題等を理解し、これらについて国際機関の役割があることを理解している。 b:地域によって異なる人口問題に着目し、それぞれの地域の人口問題(少子高齢社会等)や食糧問題、SDGs 目標に関連付けレポートにまとめたり、適切に表現している。 c:人口問題（増加や少子高齢化等)や食料問題(フードロスなど)、都市問題について主体的に追究して、世界の諸課題の解決に意欲的に関わろうとしている。			
		・エネルギー資源の開発と限界 ・新たなエネルギー資源への取り組み ・地球環境問題:地球温暖化 ・様々な場所で発生する地球環境問題 ・地球的課題の解決に向けた国際協力	a:地図や資料から世界の一次エネルギー消費量、再生可能エネルギーの発電がさかんな地域を読み取り、再生可能エネルギーの内容や、地球温暖化により引き起こされる災害や社会問題や SDGs の目標を理解している。 b:エネルギー問題と人口増加の問題との関連性、石油に代わる代替エネルギーの開発や地球温暖化の要因と影響、その解決策や SDGs の達成目標について多面的・多角的に考察し、それらを適切に表現している。 c:身近なエネルギー消費や再生可能エネルギー、地球温暖化の要因や影響について主体的に追究し、地球的課題解決のために SDGs の達成目標を主体的に追究し、自らの社会生活に生かそうとしている。			

※令和４年度以降入学生用

後期（10月中旬～12月中旬）	自然災害と防災	・日本の自然環境 ・地震・津波 ・地震・津波への対策 ・火山災害と対策 ・風水害 ・風水害への対策 ・雪害・高温と対策 ・防災・減災への取り組み	a:日本で発生するさまざまな自然災害について、日本の自然環境の特徴と関連付け、発生する原因や、災害についての対策、防災・減災のための様々な取り組みについて必要な情報を収集し、まとめることができている。 b:日本の自然環境の特徴を、世界と比較し、日本で発生するさまざまな自然災害や、防災・減災のための様々な取り組みについて必要な情報を収集し、レポートや発表等で適切に表現している。 c:さまざまな自然災害を引き起こす自然環境の特徴や、防災・減災のための様々な取り組みについて、主体的に追究しようとしている。	・考査点	・考査点 ・学習プリント ・授業中の発表	・学習プリント
後期（1月～2月）	地域調査	・課題の発見と事前調査 ・現地調査 ・調査結果の整理 ・調査結果の分析と考察 ・発表と報告	a: 調査の基本的な進め方、調査テーマの必要な情報を収集、読み取り、仮説を立て、その情報を地図化するなど、まとめることができている。また、調査結果を適切な手法で分析し作成した地図等を読み取り、調査結果の報告に適した報告手法を選択できている。 b: 調査テーマの決定に必要な情報を協働し、調査で得た情報を適切な方法で表現し、調査課題に対し協働的に考察し、調査結果について、発表手法に合わせ、適切な手段で表現している。 c:設定した調査テーマ、調査に意欲的に取り組み、調査課題や調査結果に対し、追究して調査結果を示し、調査から得られた課題を解決しようとしている。	・考査点	・考査点 ・学習プリント ・授業中の発表	・学習プリント

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度